

高度医療で地域を支える

日本全体で心不全患者が急増し「心不全パニック」とも呼ばれる深刻な状況です。津山英田保健医療圏の高齢化率は35・2%と全国平均より高く、循環器疾患が救急搬送の多くを占めます。全国の心不全患者数は推定120万人を超え、2030年には130万人に達し、認知症の併発も増加する見

えられます。症状改善や寿命延長には早期診断と適切な治療、医療職の連携が不可欠です。



ふじもと・じよつへい 愛知医科大学医学部卒、岡山大学大学院博士課程(疫学・衛生学)修了。東京医科大学大病院救命救急センター、昭和大学が丘病院、東京警察病院、日本医科大学付属病院、岡山大病院などを経て現職。認定内科医、循環器専門医、救急科専門医、集中治療専門医、社会医学系専門医、心臓リハビリテーション指導士資格保有。岡山県北部心不全療養指導ネットワーク(NOHFINE)代表世話人。

② 心不全を多職種で診る 地域で支える ー岡山県北部で進む地域医療の取り組み

津山中央病院心臓血管センター
循環器内科医長

藤本 竜平

「心不全」は病名ではなく、原因には虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)、弁膜症、心房細動などの不整脈、心筋症などがあり、糖尿病や高血圧などのリスク因子も影響します。「年のせい」と思われがちですが「症状には急切が、胸痛、動悸、疲れやすさなどがあります。放置せず、医療機関での早期診断が重要です。」

■最新の専門治療と新しい薬物療法
当院は岡山県北唯一の循環器専門施設として心臓血管センターを開設し、冠動脈カテーテル治療、バイパス手術、

弁膜症手術、負担の小さい大動脈弁置換術(TAVI)、不整脈治療などに加え、重症心不全には補助循環装置「イムペラ」での対応も可能です。

津山中央病院 心リハ・心不全ケアチーム
Tsuyama Heart Failure Support Team (T-HST)

1. 短期間に入退院を繰り返す心不全患者の再入院予防
2. 入院から退院時まで包括的支援(生活、栄養、服薬)
3. 安全で有効な運動指導(心臓リハビリテーション)
4. 心不全に関連する院内外研修の定期開催
5. 心不全緩和ケアの提供

実際の活動内容と今後の展望

心不全カンファレンス、医師・薬剤師・看護師・理学療法士・臨床栄養士の連携
院内勉強会、症例検討会と他機関との相互連携
心不全パスガイド・心不全診療ガイド作成と地域連携
視察先へも指導力伝達



地域を見据え
地域を拠点に
心不全患者さんをサポート

岡山県北部心不全療養指導ネットワーク
NOHFINE: Northern Okayama Heart Failure Education Network

津山中央病院(08688) 8111



全療養指導士への資格を持つ複数の医療者を中心に、患者家族に対して病気の理解を深めるなどの療養指導を行っています。心不全療養指導士は専門的知識を有し、生活習慣改善や服薬管理など多方面から支援する重要な役割を有します。定期的なカンファレンス、患者一人ひとりに合わせた心臓リハビリテーションやクリニカルパス(標準化された治療指針)を活用したケアを行っています。

これまでの利尿薬やβ遮断薬に加え、SGLT2阻害薬やサクビトリアルサルタンといった新たな心保護作用薬を導入しています。自己休薬は予後悪化の可能性があるので、注意が必要です。低血圧や脈拍の遅れなどの副作用が気になる場合は、医師や薬剤師に相談してください。

■院内多職種チームによる多職種心不全ケアは患者の再入院や死亡率を抑える効果が期待されます。当院では医師や看護師、理学療法士、薬剤師、栄養師などで構成される心不全ケアチームを組織しました。写真上。特に「心不全

■地域で支える心不全患者の療養ネットワーク
心不全患者は退院後も施設や在宅での療養が必要となるため、連携施設や介護施設とも継続したケアが求められます。県北部では、近隣医療機関と協力し「岡山県北部心不全療養指導ネットワーク(NOHFINE)」を写真上を立ち上げ、地域全体で患者を支える体制の整備を開始したところです。住み慣れた地域で専門的ケアが途切れないよう、医療・介護の各分野が一丸となり、地域特有の移行期ケアを強化していきたいです。